# 令和5年度宮城県仙台東高等学校学校評価書

※達成度は，学校評価で生徒・保護者の肯定的評価の平均によるものです。【内訳】S:90%以上・A:80～89%・B:70～79%・C:60～69%・D:60%未満桃色は県教委指定の共通項目

| 評価分野 | 目標（評価）項目 | 目標達成のための具体的方策（方向性） | 達成度 生徒保護者 | 達成度 職員 |
|---|---|---|---|---|
| (1)学習指導 | 学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業実践 | ①年２回の校内授業研究月間の実施と、授業力向上支援事業・授業改善研修会・授業構成法講座の活用。<br>②生徒による授業理解度評価を適切な時期に実施し、教科会で情報を共有し活用。<br>③課題テスト、考査対策週間、成績上位者・下位者への指導、日頃の予習・復習と連動した授業の実施。<br>④ＩＣＴ機器の活用に関する情報提供及び研修会の実施。<br>教務部<br>⑤学習習慣の定着指導（朝学習、課題、小テストなど）。<br>⑥個別指導による上位者の成績向上。<br>2学年<br>⑦部活引退後の受験勉強への切り替え支援（課外講習を中心に）。<br>⑧定期的な面談の実施による希望や適性の明確化。<br>3学年 | B | S |
| | | **効果の検証**<br>【成果の具体的内容】<br>●上記の方策で進めてきたが，学力が思うように伸びない生徒もおり，達成度が伸び悩んだと思われる。生徒の実態把握をしっかり行い，それに合わせた指導が必要と考えられる。<br>●２学年は，年間を通じて英語の朝課題を実施した。また生徒の学力に応じて個別指導を実施した。<br>●３学年は，県総体後に放課後課外を開始し，受験に向かう体制を早い時期に整えた。また今年度は夏季休業中の課外を１週間延長して８月上旬まで行い，生徒の学習を支援した。面談は，年間行事に設定したものに加えて各担任が適切なタイミングで行った。<br>【今後の課題】<br>●学習習慣を確立させるための手立てを工夫する。ＩＣＴ機器などの利用を推進し，生徒にとって魅力ある授業づくりを進める。<br>●２学年は，家庭学習時間が今までよりも少ないことによる結果が数字に現れている。今後は最終学年となるので，個別指導を含めてより組織的な取り組みを検討したい。<br>●３学年は，進路決定後，学習への集中を欠く生徒がみられた。１月の学年集会で全体指導をしているが，次年度以降は１２月上旬頃に決定者集会を設けることを提案したい。 | **学校関係者評価** | 生徒の65.5%が肯定的評価をしていますが、これは昨年度県平均と比較すると18.4%も低い数値であり、さらに生徒による評価と教職員による評価が乖離しているというのは、何か問題があると思います。生徒による評価が低い原因を探るために、学校独自の項目に学習指導関連の項を追加したり、生徒の声を直接聞いたりするなどの工夫が必要でしょう。また生徒と教職員による評価の乖離についても、学習指導が一方的なものになっていないか検証すべきです。 | | |
| (2)生徒指導 | 挨拶やマナーなどの基本的生活習慣の確立 | ①遅刻回数による段階的な指導（家庭との密接な連絡、早期個別面談指導）。<br>②容儀指導の徹底。<br>③部活動・委員会主導による積極的な挨拶運動。<br>④継続的な声がけと、教員による共通理解の下の指導。<br>⑤生徒主体の活発な部活動を行うための定期的な指導（部長会）。<br>⑥学校行事、委員会活動の活性化を図る取組。<br>⑦家庭や学校以外の人との接し方を身につける。<br>⑧交通安全講習会や継続的な通学マナーアップ指導による交通安全指導。<br>⑨全校集会による学校生活全般についての一斉注意喚起。<br>生徒指導部<br>⑩挨拶、服装、身だしなみ、自転車マナーの日常的な指導。<br>⑪授業や集会などでの時間前行動。<br>1学年<br>⑫遅刻、早退の多い生徒に対する個別面談指導。<br>⑬挨拶、身だしなみ、自転車マナーの日常的な指導。<br>⑭部活動、学校行事、委員会活動の励行。<br>2学年<br>⑮挨拶、身だしなみ、自転車マナーの日常的な指導。<br>⑯部活動、学校行事、委員会活動の励行。<br>3学年 | A | A |
| | | **効果の検証**<br>【成果の具体的内容】<br>●先生方の多方面からの継続的な指導が効果を見せていることから、より積極的に段階的な指導を継続していきたい。また、委員会活動など生徒の主体的な活動を通して啓蒙活動を図りたい。 交通事故防止、交通マナー向上については、積極的なヘルメット着用の推進や、通学マナーアップ指導など継続的な指導を実践し、より一層充実させたい。<br>●１学年は，挨拶、服装、身だしなみ、自転車マナー等の指導を丁寧に行った。授業や集会などにおける時間前行動の徹底については、概ね達成していた。<br>●２学年は，遅刻の多い生徒に対して面談等の個別指導を組織的に行った。<br>●３学年は，挨拶をきちんとしている。通学マナーアップ運動などによって自転車マナーの意識向上を図った。部活動、学校行事、委員会などでは中心的役割を果たしていた。<br>【今後の課題】<br>●教員側からの働きかけだけではなく、委員会活動などを生かし、生徒間で話し合いなどによる課題解決の推進を図ることでより効果的な成果が得られるものと考えている。<br>●通学時の自転車事故が多発し、重大事故もあったので、今後も生徒の注意喚起を促したい。<br>●制服の意義や着こなし方について、生徒に主体的に考えてもらう必要がある。 | **学校関係者評価** | 肯定的評価が多いのはよいことであると言えるでしょう。さらに学校においては、基本的生活習慣の確立に関する指導に加えて、家庭では学ぶことが難しい、たとえば集団生活における他人との関わり方や、その場に応じた行動ができる力などを身に付けさせていくのも大切なことだと考えます。交通安全指導については、事故防止に努めるのはもちろんのこと、特に自転車の乗り方に関して、ヘルメットの着用を呼びかけたり、交通マナーの意識付けをしたりすることも継続してもらいたいと思います。 | | |
| (3)進路指導 | 進路目標の明確化に向けた適切な指導 | ①３年間を通した体系的な進路指導（志教育、キャリア教育、各種ガイダンスなど）を適切な時期に行うことによる、生徒の進路目標の達成を目指す。<br>②模擬試験の有効活用（事前指導を通した意識付け・結果分析）、課外講習の充実化（１・２年生の課外講習参加者増加、３年生に対する課外講習の時間確保）により、生徒の進路目標達成に必要な学力の向上を図る。<br>③総合的な探究の時間などで論理的思考力を育成し探究活動を拡充し、情報収集力、情報分析力や課題発見・課題解決力、新たな価値を創造していく力を身につけさせ、 自己の生き方を考えさせる。<br>④学習状況調査や面談を通して生徒の進路意識を把握し、個々の生徒に応じて適切な情報の提供やアドバイスを行う。<br>進路指導部<br>⑧オープンキャンパスへの参加、社会貢献プログラムの実施。<br>⑨二者面談、三者面談の実施による生徒個々の進路目標把握と適切なアドバイス。<br>2学年<br>⑩オープンキャンパス、大学等説明会への参加と関心分野に対する問題意識の醸成。<br>⑪進路シラバス、各種進路ガイダンスの有効活用。<br>⑫志望理由書作成指導、面接指導の実施。<br>3学年<br>⑤２年時の科目選択を実施するにあたり、系統的な指導を行い、生徒の進路意識の啓発を図る。<br>⑥オープンキャンパス、夢ナビライブ（ｗｅｂ）に参加させることで、大学で学ぶ内容を明確にするとともに、様々な職業分野に関する講義を聴くことで将来に向け職業意識を高める。<br>⑦進路シラバス、各種進路ガイダンスの有効活用。<br>1学年 | A | S |
| | | **効果の検証**<br>【成果の具体的内容】<br>●進路資料や各種ガイダンスなど時期に応じて生徒の意欲を喚起させるような指導を検討し、実施した。今年度は、新たに１０月に２学年進路ガイダンスを実施し、２年生後半からの進路実現に向けた意欲の喚起に努めた。<br>●ロングホームルームに模擬試験の事前・事後指導の時間を設定し取り組んだ。また、教員向け模試分析会を各回で行い、３年生は１２月保護者面談の前に出願指導に向けた分析会を行った。模試の有効活用について生徒、教員の意識はかなり定着してきたと思われる。３年生の課外講習は夏期課外で５日間延長したことで内容の充実を図ることができた。<br>●総合的な探究の時間については各学年の核となる探究活動を中心に内容の充実を図りながら実施・検討してきたが、更なる内容の精選・充実が必要である。<br>●面談の際にベネッセや河合塾の分析資料を用いた具体的な指導も定着してきている。生徒のベネッセマナビジョンの登録も増加しているため更なる活用を促していきたい。<br>●総合型・学校推薦型選抜の指導教員割り当てを夏季休業前に行い、夏期休業期間に指導できるようにした。志望理由書作成、面接指導を全教員に振り分け、手厚く指導した。<br>【今後の課題】<br>●１学年の保護者向け進路説明会を実施し、進路達成に向けた保護者の心構えや、本校の進路の取組について理解と協力を求める。<br>●課外の内容の再検討、学年集会等での意識づけを行う。<br>●模試について事前事後の取組の充実、教員対象模試分析会の内容の充実を図る。<br>●総合的な探究の時間について進路指導部と他分掌との調整を密に行い、３年間の体系的な指導計画に基づいて内容の充実を図る。<br>●Ｒ７年度に向けた入試制度関係について、校内研修の実施を検討する。 | **学校関係者評価** | 生徒・保護者ともに肯定的評価が多く、この分野も教職員による丁寧な指導が継続されているものと思われます。これまでも行われてきたのでしょうが、進路指導については、やはり１学年の早い時期から進路について意識付けをすることが必要であると感じます。大学等への進学を考えている生徒については、高校へ入学してすぐに志望大学、学部を決めるのが難しいと思われるので、学部や職業について選択肢を広げることができるような指導をお願いしたいところです。また大学等への進学を希望しない生徒に対しても、面談やＩＣＴを活用した相談対応などによって、きめ細やかな指導がなされることを期待します。 | | |
| (4)教育相談 | 必要な時に随時相談に応じる体制 | ①カウンセリング利用が定着しつつあるが、ホームページ等を通じ、更なる利用を呼びかける。<br>②カウンセリング委員会・教育相談委員会の連携を図り、更に様々な相談に対応できるように各学年に担当者を配置しスムーズに「ケース会議」等を開催する体制を整える。<br>③保健便り、ＰＴＡ総会資料等を通じ、教育相談について、保護者への周知徹底を図る。<br>保健厚生部<br>④保健便り、ｅメッセージを活用し、カウンセリングについての理解を深める。<br>全学年 | A | S |
| | | **効果の検証**<br>【成果の具体的内容】<br>●カウンセリングは、案内メール配信後に保護者の申込があったことから、生徒・保護者に周知されたと考える。学年や委員会と連携し、ケース会議を開催するなど支援に繋げた。<br>●生徒・教職員向けに講話を実施し、言葉による表現方法や思考の傾向について学びの場を提供できた。<br>【今後の課題】<br>●配慮を必要とする生徒の情報や対応について全学年で共有する。<br>●カウンセラーや外部機関との連携を積極的に推進する。<br>●希望者が集中し、予約の取れない日もあった。 | **学校関係者評価** | カウンセリングの希望者が多く、予約が取れないこともあったとのことなので、援助要請への抵抗感が少なくなったという点では良い傾向と思います。ただし、生徒に対するアンケートの結果を見ると、肯定的評価の割合は昨年度県平均と比べて数値が低いことから、カウンセラーの来校日を増やす、あるいはＩＣＴを活用したカウンセリングを行う、などの方策も検討する必要があるのではないでしょうか。 | | |

# 令和5年度宮城県仙台東高等学校学校評価書

※達成度は，学校評価で生徒・保護者の肯定的評価の平均によるものです。【内訳】S:90%以上・A:80～89%・B:70～79%・C:60～69%・D:60%未満桃色は県教委指定の共通項目

| 評価分野 | 目標（評価）項目 | 目標達成のための具体的方策（方向性） | 達成度 生徒保護者 | 達成度 職員 |
|---|---|---|---|---|
| (5)部活動 | 部活動に対する活発な取組 | ①新入生の部活動全員加入と生徒会執行部のバックアップ体制の強化。<br>②部長会主導による規律ある活動の徹底。<br>③部活動施設・設備等の調査及び整備充実のサポート。<br>④各種大会結果等について保護者へＰＴＡ会報やホームページを通して通知する取組。<br>（生徒指導部）<br>⑤部活動の積極的参加を呼びかける。（1･2学年）<br>⑥部活動を最後までやり抜く指導。（3学年） | A | A |
| | | **効果の検証**<br>【成果の具体的内容】<br>●部活動に積極的に取り組む生徒は目的が明確であり、その取り組み姿勢は学習に対して同様である。入部した部を３年間継続できるよう働きかけたい。<br>●生徒は部活動の意義を理解し、熱心に活動していた。１学年では、活動が盛んな部活に、特に英語科の生徒が多く所属している。３学年は、多くの場面で活躍する姿が見られた。<br>【今後の課題】<br>●部長会主体の話し合いによる規律の維持、活動の活性化を図りたい。<br>●２学年から部活動所属が任意になるため、加入率が下がる傾向がある。部活動の意義を生徒に理解させ、学習との両立を図りながら高校生活を充実させるよう指導していきたい。 | **学校関係者評価** | 新入生は部活動に全員加入とのことですが、部活動を取り巻く最近の状況からすると、全員加入を求めるのは難しくなってきているのではないでしょうか。また、先生方にとっても、指導が負担となっていないか心配です。外部指導者の導入をさらに進めるなどしながら、東高らしい活動の定着を図ってもらいたいと思います。 |
| (6)生徒会活動 | 生徒会活動に対する活発な取組 | ①生徒の主体的な活動における生徒会執行部の活動活性化。<br>②生徒会、委員会活動を通してリーダーの育成を図る。<br>（生徒指導部） | A | S |
| | | **効果の検証**<br>【成果の具体的内容】<br>●生徒会執行部がリーダーシップを発揮し、生徒の主体的な活動に各行事は大成功を収めた。<br>【今後の課題】<br>●より一層、生徒会執行部が主体的な活動ができるよう、その仕掛けつくりを工夫していきたい。 | **学校関係者評価** | 生徒会執行部の主体的な活動により各種行事は大成功だったということで、今後も生徒が自ら考え、行動できるよう、学校がサポートしてほしいと思います。また生徒会活動が盛んな学校と交流する機会もあるとよいと感じました。 |
| (7)学校行事 | 有意義な学校行事の取組 | ①外務省からの情報をこまめに確認して、安全で安心な海外研修プログラムを実施する。（国際部）<br>②生徒会、委員会の活性化によるリーダーの育成。（生徒指導部）<br>③クラスでの役割を果たしながら、行事に積極的に取り組むことで、東高生としての誇りを持てるようにする。（1･2学年）<br>④校内諸活動の中心となりリーダーシップを発揮できるようにする。（3学年） | S | S |
| | | **効果の検証**<br>【成果の具体的内容】<br>●生徒会執行部、各実行委員会がリーダーシップを発揮し、生徒が主体的に活動した各行事は大成功を収めた。　生徒満足度：９０％<br>●４年ぶりとなる海外研修を実施できる見込みである。今回から「本校の目玉行事」とも言える海外研修を軌道に乗せ、継続して実施していきたいと考える。<br>●全ての学年の生徒が、積極的に行事へ参加していた。特に３年生は、行事運営の中心となってよく活動してくれた。<br>【今後の課題】<br>●より一層生徒会執行部、各実行委員会が主体的な活動ができるよう、その仕掛けつくりを工夫していきたい。<br>●海外研修については、どうしてもコロナ前よりも経費が上がっている。受益者負担とはいうものの、なるべく多くの生徒が参加できるような手立てを考えていきたい。<br>●学年が上がるごとに行事での活動における責任が重くなる場面もあるが、自主性を伸ばす指導をしていきたい。<br>●今後も感染症が流行する時期には、行事の持ち方を検討する必要がある。 | **学校関係者評価** | 学校行事の充実ぶりが、生徒・保護者・教職員という三者の高評価として表れています。コロナ渦も落ち着きつつあり、学校行事もコロナ渦前に戻りつつあるのでしょうが、これからの行事運営の在り方については、今までのやり方の良いところを受け継ぎつつ、東高独自となるような新しい形の行事に変化させていくのも、生徒の主体性を尊重するのに良い機会だと思います。 |
| (8)特色ある学校 | 地域や伝統、目指す学校像などに基づいた特色ある学校づくり | ①１学年で、ＳＤＧｓをより深く追究した指導･理解を図る総合的な探究の時間。<br>②世界情勢を踏まえたグローバルウィークの内容精選と異文化理解の態度の育成。<br>（国際部）<br>③英語科講演会、英語科合宿の充実。<br>④スピーチ・英作文等の各種コンテストの奨励。<br>（英語科） | A | A |
| | | **効果の検証**<br>【成果の具体的内容】<br>●グローバルウィークでは考えている行事を実施することが出来て盛会であったが、総探の時間は、国際部の出番はなかった。<br>●英語科講演会及び合宿とも好評だった。校内の英語弁論及び英作文の予選も県大会出場へ向けて実施できた。<br>【今後の課題】<br>●総合的な探究の時間については、関係機関･分掌との連絡･調整を図りながら次年度は実施していきたいと考えてはいる。<br>●英語科合宿を今年度は５月に実施したが、保護者の方々の多大なるご理解とご協力のおかげで無事に終えることができた。ただ、もう少し余裕を持って準備ができるよう、次年度は実施時期を変更する予定（Ｒ７．１月）である。 | **学校関係者評価** | 特色ある学校づくりについて、生徒、保護者から高い評価を得ているのはすばらしいことだと感じます。また県内では数少ない英語科があるので、英語科だけでなく、学校全体で英語に力を入れた指導を行うなど、他校にはない、他校とは違った何かを取り入れることで、「東高に行けばこれができる」という独自性を打ち出せるとよいのではないでしょうか。 |
| (9)防災教育 | 災害・非常時の避難方法や連絡方法の徹底 | ①生徒の防災意識向上につながる防災訓練の実施と防災マニュアルの精査を行う。<br>②ｅメッセージの登録率の向上と、運用方法の改善を図る。<br>③各種訓練や研修会を行い、命を守ることの大切さを徹底する。<br>④危機管理マニュアルの周知徹底により、危機の未然防止に取り組む。<br>（総務部）<br>⑤各種防災訓練に取り組ませることで、命の大切さの指導を徹底する。（全学年） | A | S |
| | | **効果の検証**<br>【成果の具体的内容】<br>●５月２５日(木)に地震・津波想定の訓練を、１０月１２日(木)に火災想定の訓練を実施した。５月の訓練では、校庭に１次避難、その後に校舎３階に２次避難をするなど、コロナ禍以前の訓練の形式で実施できた。今後も、訓練やマニュアルの改善に努め、よりよい防災教育となるようにしたい。<br>●各種訓練では、避難の際の動線が周知されており、生徒は素早く行動していた。<br>【今後の課題】<br>●ｅメッセージのシステムが切替となった。これを機に、登録率の向上に努め、よりよい運用を行っていきたい。<br>●突然起きる災害に対しても、訓練同様に落ち着いて行動できるよう、折に触れ指導していく必要がある。 | **学校関係者評価** | 防災訓練が、コロナ渦以前のように実施できたのはよかったと思います。ただし、生徒に対するアンケート結果を見ると、肯定的評価の割合は年々低下傾向にあることから、訓練以外にも講演や探究学習などの形で防災教育の時間を設けてはいかがでしょうか。また登下校時に被災した場合や、不審者に遭遇した場合などへの対応についても、指導が必要であると感じます。 |
| (10)開かれた学校 | 学校情報の適切な発信 | ①学校ホームページの充実。<br>②ＰＴＡ会報「しおかぜ」の紙面の充実。<br>③仙台東高校カレンダーの充実。<br>④ｅメッセージの適切な利用による情報発信。<br>（総務部）<br>⑤地域の小学校や市民センターと部活動・英語科活動との連携を行う。<br>⑥オープンキャンパス時の英語科紹介ＰＲ等の充実を図る。<br>（英語科）<br>⑦学年便りを定期的に発行し、保護者への情報発信に努める。（全学年） | S | S |
| | | **効果の検証**<br>【成果の具体的内容】<br>●ＰＴＡ会報は、保護者の意見に基づいて編集を行うことができた。また、これまではプリント配付によって連絡・案内をしてきたが、さらにｅメッセージも活用することにした。<br>●オープンキャンパス時の英語科紹介は、中学生及びその保護者へ向けての本校英語科の良いアピールの場になった。<br>●学年だより等を定期的に発行するとともに、ｅメッセージを積極的に活用して情報発信に努めた。<br>【今後の課題】<br>●情報発信の方法について、生徒・保護者に、より適切に情報が伝達できるよう改善を重ねたい。特に配付プリントなどのデータをなるべくｅメッセージに添付するようにしたい。<br>●小学校や市民センターとの連携も、時期等の問題もあるが、可能であれば実施を検討していきたい。<br>●学年だよりやｅメッセージを活用しながら、より効果的な情報発信の方法を検討したい。 | **学校関係者評価** | ホームページに掲載されているコンテンツや、ＰＴＡ会報「しおかぜ」、マスコミへの情報提供など、積極的な発信がなされているため、全体的に評価が高くなっていると思われます。また生徒達によるコミュニティセンターでの活動なども、開かれた学校づくりにつながっているのでしょう。今後は、たとえばオープンキャンパスの際に、分かりやすい校内案内図を用意するなどの工夫があるとよいのかもしれません。 |

# 令和5年度宮城県仙台東高等学校学校評価書

※達成度は，学校評価で生徒・保護者の肯定的評価の平均によるものです。【内訳】S:90%以上・A:80～89%・B:70～79%・C:60～69%・D:60%未満桃色は県教委指定の共通項目

| 評価分野 | 目標（評価）項目 | 目標達成のための具体的方策（方向性） | 達成度 生徒保護者 | 達成度 職員 |
|---|---|---|---|---|
| (11)PTA活動 | ＰＴＡ活動に対する学校と保護者との連携 | ①ＰＴＡ諸行事を通じて、ＰＴＡ役員を含めた保護者と学校の協力体制をより強化していく。<br>②ＰＴＡ会報・ホームページ・ｅメッセージによる情報発信を、適時行う。<br>③学校・保護者が協力して街頭指導を行うことで、生徒通学時の安全意識の向上を図る。<br>総務部 | S 保護者のみ | S |
| | | **効果の検証**<br>【成果の具体的内容】<br>●ＰＴＡ全国大会の開催協力など、役員を中心に積極的に活動できた。本校のＰＴＡ主催の花火行事の開催ができた。登校時街頭指導などは、昨年度よりも参加の保護者が増加した。保護者と学校の協力体制の成果と捉えてよいのではないか。<br>【今後の課題】<br>●ＰＴＡがよりよい方向で活動できるよう、継続と改善を心がけていきたい。 | **学校関係者評価** | 保護者が積極的に活動しているのは、すばらしいことだと思います。ただし、近年の社会状況からすると、必要に応じて外部委託等も検討してよい時期にあるのではないかと感じます。保護者の意見を聞く機会を設け、よりよいＰＴＡ活動の在り方を見つけてもらいたいものです。 |
| (12)施設設備 | 施設・設備の整備に対する取組 | ①定期的に校舎内外の点検を行い、危険箇所及び破損箇所の早期発見に努めるとともに、速やかに安全対策等を講じ、事故防止に努める。<br>②大規模修繕等については、生徒・保護者・教職員の要望を検証し、教育庁施設整備課との調整により、計画的に推進する。<br>事務部 | B | A |
| | | **効果の検証**<br>【成果の具体的内容】<br>●校舎内外の点検を定期的に行った他、施設の破損箇所・機能不全箇所等、必要な修繕を実施した。<br>【今後の課題】<br>●修繕や更新を要する施設等について、十分な予算が措置されていないので、今後も優先順位の高いものから予算措置されるよう求めていく。<br>●今後も危険・破損箇所等の把握し、事故防止に努めていく。 | **学校関係者評価** | 校舎は、大変個性的なつくりだと感じます。経年劣化が著しい箇所を中心に修繕対応しながら、そのユニークさを生かして伝統をつくり、校舎に愛着を持ってもらえるようにしてもらえるとよいと思います。 |
| (13)いじめ問題 | いじめに関する問題の早期発見と取組方針の保護者との共有 | ①定期的な「いじめアンケート」の実施と追跡調査。<br>②全ての教員による「あらゆる場面」での観察と日頃からの声がけ指導。<br>③いじめは絶対に許さないという毅然とした指導をさまざまな場面で取り組む。<br>④分掌内や各学年との恒常的な連携と対応。<br>⑤教育相談委員会の取組の徹底。<br>⑥スクールカウンセラーの積極的な活用促進。<br>⑦「学校いじめ防止基本方針」の共通認識を図り、全職員でいじめ防止に取り組む意識の徹底を図る。<br>⑧情報モラル教育を、ロングホームルーム等を活用して行う。<br>生徒指導部<br>⑨常日頃からの観察と声がけ。<br>⑩二者面談・三者面談による情報収集と保護者への連絡徹底。<br>全学年 | B | S |
| | | **効果の検証**<br>【成果の具体的内容】<br>●今後も「学校いじめ防止基本方針」に則り、教職員、保護者ともに共通認識のもと継続していじめ問題に取り組んでいきたい。<br>●１学年は、学年団で常日頃から生徒の情報を共有し、また何気ない会話を教師側から生徒にすることをきっかけとして生徒の様子を観察しようとした。<br>●２学年は、いじめを許さないという姿勢を貫く一方、関係する生徒への聞き取りや心のケアなどを行った。<br>●３学年は、アンケートの実施や面談などを通して把握に努めた。<br>【今後の課題】<br>●定期的な記名式のアンケート調査の実施や日常生活における教職員よる観察及び情報交換により生徒の変化を注視する。また、二者面談・三者面談を実施し、生徒、保護者との密な情報共有により、いじめ問題には迅速丁寧な対応を心がける。<br>●いじめ防止の意識を生徒に喚起するとともに、生徒が教員に相談しやすい環境を作ることによって、いじめの早期発見に努める。<br>●いじめの対応については、担任だけで何とかしようとすると対応が後手後手になってしまう恐れがあるので、学校全体として組織的に取り組むという意識を共有する必要がある。 | **学校関係者評価** | いじめ問題に対する指導は熱心になされていると思いますが、最近はＳＮＳ等を用いてのいじめや、いわゆる「いじり」など、外部の人間には見えにくい事例も多くなっているようです。実際にアンケートの回答を見ると、生徒と教職員の評価には20%もの開きがあります。また生徒の76.1%が肯定的評価をしているものの、見方を変えると生徒の１／４が否定的に見ているともいえるので、今後も生徒の思いを丁寧にくみ取る努力が必要でしょう。 |
| (14)保健指導 | 自主的に健康管理ができる指導 | ①全ての生活の基盤は、心身の健康保持・増進にあることを自覚させ、規則正しい食生活と十分な睡眠の確保を呼びかける。<br>②担任、保護者と連携をはかりながら、保健便り、クラスの健康観察を通して、自主的に健康管理や正しい行動選択の実践ができるよう啓発する。<br>保健厚生部<br>③基本的生活習慣の定着指導。<br>全学年 | A | A |
| | | **効果の検証**<br>【成果の具体的内容】<br>●保健だよりで睡眠について説明するなど、規則正しい生活習慣についての情報を発信した。特に、部活動や学習の疲労を感じている生徒や睡眠不足のある生徒に対しては、個別の保健指導も実施した。<br>●生活習慣が乱れてしまうことで成績不振や欠席・遅刻の増加が見られる生徒に対し、面談等の指導を行った。<br>●消毒用アルコールが各所に配置され、常に使える状態が維持されている。<br>【今後の課題】<br>●健康に対しての意識は低くはないが、予防するための工夫や問題への対応方法がうまくできない傾向があるので、生徒が自分でうまく対応できるように指導していきたい。<br>●今後も保健厚生部、学年、担任、保護者と連携し、継続的な指導や支援を実施していく必要がある。<br>●スクールカウンセラーとも連携をし、心の健康に対しても継続して支援していく必要がある。 | **学校関係者評価** | 生徒・保護者に対するアンケート結果からすると、保健指導の在り方は概ね良好といえるのではないでしょうか。保健だよりを発行することによって、生徒に規則正しい生活習慣を身に付けるよう促し、さらに部活動や学習の疲労を感じている生徒や睡眠不足のある生徒に対しては個別の保健指導を実施したというのは、適切な取り組みであると感じます。引き続き生徒の成長を支援していただきたいと思います。 |
| (15)読書指導 | 生徒の読書活動をサポートする取組 | ①年２回ロングホームルームで「読書会」を設定し、読書に取り組むきっかけをつくることで、主体的に読書に取り組める生徒を増やす。<br>②新入生対象の「図書室利用オリエンテーション」を実施し、活用案内を配付することにより、図書室が身近なものとなるようにする。<br>③「年間多読賞」を継続し、読書への興味・関心を高める。<br>④大学の小論文に参考となるような新書などを紹介するなど、進路目標達成につながるような読書を促す。<br>⑤Ｅライブラリーによる各クラスへの書籍配置を実施、読書活動を推進する。<br>教務部 図書班<br>⑥英語多読教材を整備する。 英語科<br>⑦ＬＨＲを活用し、読書活動を推進する。 全学年 | C | C |
| | | **効果の検証**<br>【成果の具体的内容】<br>●上記にあるような様々な取り組みを行ってきたが、情報を得るために本よりもスマートフォンやタブレット端末を利用する生徒が増加し、図書離れが進んでいるものと思われる。<br>●英語多読教材については、大学受験でも多読の必要性が高まっているので、継続して教材の整備に努めていきたい。<br>●ロングホームルーム年間計画作成に当たって「読書会」の時間を設定し、ロングホームルームに各クラスで読書活動を行った。<br>【今後の課題】<br>●読書活動の推進、及び啓発のさらなる工夫を考えたい。本を読んだ感想を発表しあうなどの活動も含めて、生徒が読書に親しむようになるための働きかけを検討すべきである。<br>●英語多読の指導は非常に難しいが、より効果的な指導を模索していく。<br>●ロングホームルームを活用した読書指導は、時間数の都合でどうしても限定的になってしまうので、ロングホームルーム以外にも読書指導をする機会を設ける必要がある。 | **学校関係者評価** | 読書指導の達成度に関して、昨年度は生徒・保護者・教員ともに「A」の評価でしたが、今年度はいずれも「C」となっています。今年度から朝読書を廃止して、ロングホームルームでの読書会を設けることにしたとのことですが、今年度の読書指導に対する評価を踏まえて、来年度は指導の在り方を工夫していただきたいと思います。 |
| (16)総合満足度 | 充実した学校生活のための取組 | ①入学式・卒業式などの学校行事が、生徒・保護者にとってかけがえのない行事となるよう計画・準備を行う。<br>②「学校防災計画」に示した緊急時対応の検証を常に行う。<br>総務部<br>③個人面談の充実により、目的意識を涵養し、充実した高校生活となるよう支援する。<br>④文武両道の推奨。<br>⑤学校行事などへの積極的な取組を指導する。<br>全学年 | A | A |
| | | **効果の検証**<br>【成果の具体的内容】<br>●入学式や卒業式も、コロナ禍による制約が少なくなった。その中で、生徒・保護者にとってよりよいものとなり、教育成果の向上につながるような行事を心がけていきたい。<br>●行事計画に組み込まれているものの他に、必要に応じて積極的に個人面談を実施し、さらに家庭と連絡を取り合いながら生徒の活動を支援した。<br>【今後の課題】<br>●防災について、折々の情勢を踏まえつつ、検証と改善を重ねていきたい。<br>●これまで以上に面談の機会を確保するよう努め、個別対応のさらなる充実を図る必要がある。 | **学校関係者評価** | 生徒・保護者に対するアンケート結果を見ると肯定的評価の割合は高く、日頃より適切な指導がなされていると思います。スクールポリシーに関しても評価は高いようですが、今後は、学校ホームページに「グラデュエーションポリシー」と「カリキュラムポリシー」も分かりやすく示すことで、「東高らしさ」がさらに周知されることを期待します。 |